

洛友会会報

京都府左京区吉田本町
京都大学工学部
電気系教室内
電話 洛友

ご挨拶

洛友会会長 松田長三郎

□ 只今は、天高く気清らかな仲秋の好季節であり、また日一日と、夜も長くなって来て、読書・思索の好季となって来ました。会員の皆様、如何お過ごしでしょうか、ご健康をお祈り申し上げます。

□ あと16年で、21世紀を迎えることとなります。19世紀末から20世紀初めにかけて、いろいろのことが起っています。物理學方面では、レントゲンのX線の発見、J.J. Thomsonの電子の発見(皆々)は、同教授の“Conduction of Electricity Through Gases”なる名著をお読みになった方も多いかと思います。一九〇〇年にはPlanckの量子論、一九〇五年にはEinsteinの相対論(Relativity)が出ました。アインシュタインは、Newton以後、何百年に一人出ると言われ出した物理學者で、同氏がノーベル賞受賞された際、日本の電気学会等から招請されて、

帝国大学所在地で講演され、京都大学でも講演された時、あつかましくも、何か質問をして、町重にお答えをして頂いたことを思い出します。

□ さて今世紀末前後には、どんな研究成果が表われるでしょうか。当時に比較して現在では、各般の情報伝達が迅速且つ詳細で、各大学や研究所その他の研究機関で発表せられる新研究も多数に上り、又世界的に紹介せられるScience Abstracts (Section A及びB)誌上の、我国研究者の論文も多くなって来ていることは、ご同慶の至りでありませんが、世界における経済大国としての日本の地位は、最早不動のものとなって来ましたが、今後は、一層謙虚に、世界のの人から、文化国家としての日本及び日本人の高い評価を受けたものであります。

□ 学問の道は、不明のこと、未知の事柄を、突き進んで攻究して行く訳であります。先人の後をたどったり、更に新しい道を切り拓いて行く道程は、多種多様であります。私共の大学生時代(大正三年〜六年)には、大抵の問題は、最早解決されて了って、我々微力な者が、やれるような余地は残されていないように思われて、同学の友人達と、話し合ったりしたことあつたが、どうしてどうして、次から次へと、新しい道が開かれて来て、尽くる所がない現状である。汲めども尽きぬ無窮無限の宝庫は、人類の前に残されている。さて誰れが、この秘められた無限の宝庫を開く恩寵に恵まれるでしょうか。

□ 今は随分多くの方々が、海外へ出掛けられるし、又海外駐在の人達も、非常に多くなって来た。私が京大助教時代、文部省の在外研究員として、独英米その他の諸国へ派遣されたのは、昭和6年で、小学校時代の同級生は、晴がましくも、祝松田長三郎君外遊の長い職を立てて、京都駅まで見送って下さったし、教室の先生方からは、保津川下りや嵐山での送別宴等にお招き頂いたし、工学部の諸先生からも、盛大な送別会を催うして下さったような次第で、当時は海外留学は、まだ珍らしか

つたのである。尤もその当時は、教授昇任には、在外研究が必要条件でもあつた。

□ 当時は、今のようには、飛行便は無かつたし、神戸〜マルセイユ間34日の船旅は、この世の楽園の感があつた。この船賃、一等で、たしか九六〇円であつたと思う。仕事の電話もかかつて来ないし、船上での親しいお友達も出来、来る日も来る日も、多年、あこがれ

電気系教室だより

対阪大交歓スポーツ大会について

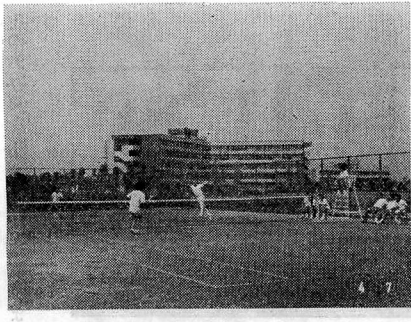
恒例の対阪大交歓スポーツ大会が、七夕の日、七月七日(土)の午後、大阪大学吹田キャンパスにて開催されました。京大からは、板谷、岡田両教室主任(長尾主任は外国出張中で欠席)、池上、安陪、松波各教授以下教職員、学生総勢七〇余名が参加いたしました。当日は朝から曇り空で、バスで阪大に向かう途中一時雨模様となり心配いたしました。その後雨も上り、予定通り競技が行われました。阪大到着後メモリアルホールで開会式が行われ、阪大木下教授の歓迎の辞、京大板谷教授の返礼の辞のあと、野球、ソフトボール、卓

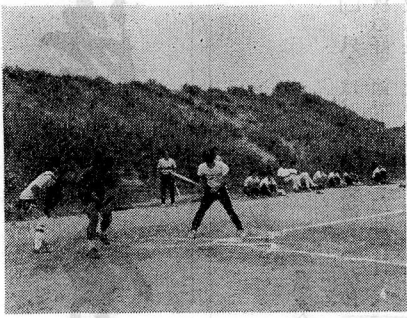
のまだ見ぬ学問の国ドイツのイメージを心に描きながら意欲的な感慨に、胸をふくらませていた。思えば向学の念に燃ゆる壮年の決意を思うて、今昔の感に堪えぬ次第です。往年弘法大師は、立唐2年、文物制度等、多くのお土産を持ち帰られて、我国の文化発展のために多くの貢献をされたが、全く汗顔の至りであつた。

(終)

球、庭球、排球の五種目について熱戦が繰り広げられました。各競技の成績は次の通りです。

- 野球 ○京大5―2阪大
- ソフトボール ○京大4―1阪大
- 卓球 ○京大5―10阪大





庭球 ○京大6―3阪大
 パレーボール京大0―2阪大○
 以上のように今年度は総合成績
 3―2で京大が勝利をおさめるこ
 とができました。競技終了後、生
 協グレルに於て懇親会が催され、
 阪大森永助教授の司会により、開
 会の辞、乾杯の後、木下教授より
 各競技の勝利監督に優勝杯が授与
 されました。引き続き勝者、敗
 者の弁、各先生方のスピーチ、来
 年度開催地の京大岡田教授よりの
 歓迎の辞等が述べられ、さらにア
 トラクションもとび出し、和気あ
 いあいのうちに予定の二時間が過
 ぎました。最後に、それぞれ大高
 応援歌、琵琶湖周航の歌を合唱し、
 今回いろいろお世話いただいた阪
 大の方々に感謝しつつ散会、帰路
 につきました。(麻生記)

教官の異動

前号のお知らせ以降、次のよう
 な異動がありました。
 奥村 浩士 昭和59年10月1日、
 電気工学第二教室
 (木嶋研) 助手より
 同講師に昇任
 (昭和41年電気工学
 科卒)
 深尾昌一郎 昭和59年10月1日、
 電気工学第二教室
 (木村研) 助手より
 同講師に昇任
 (昭和42年電子工学
 科卒)

清野 武先生

古稀記念画展および祝賀会

本学名誉教授 清野 武先生が
 古稀を迎えられるにあたり、京都
 大学、大阪電気通信大学、その他
 の有志による古稀記念画展準備会
 (代表大野豊京大教授)の主催で、
 標記画展が去る五月三日より五日
 まで百万遍「思文閣会館」におい
 て開催されました。古稀記念画展
 祝賀パーティも併せて五月三日夕
 刻京都ホテルにて開かれました。
 記念画展では、先生の過去五回
 の個展御出品の作品、ならびに日
 本墨相展入選作品など、百十一点
 にのぼる先生の素晴らしき花木の
 絵画が展覧され、京大や、現在、

松本 純也

科半)
 昭和59年10月1日、
 電気工学教室(岡田
 研) 助手より一般電
 気工学講座(安陪研)
 講師に昇任
 (昭和44年電子工学
 科卒)
 湯川 敏信 昭和59年10月1日、
 電子工学教室(旧池
 上淳一研) 助手より
 岐阜大学教育学部助
 教授に昇任
 (昭和51年電子工学
 専攻博士課程修)

清野先生が御勤務の大阪電通大の
 関係者のほか、一般の来訪者も多
 く、終始和やかな雰囲気の中で大
 いに賑わいました。
 一方、記念祝賀パーティは、画
 展の第一日に当たり、参加者は画
 展の感動さめやらぬままに京都
 ホテル「松の間」へと足を運びま
 した。会は、清野先生御夫妻をお
 迎えし御招待者十一名のほか、一
 般参加者約百名という盛況でし
 た。準備会を代表して大野豊教授
 より出席者一同へお礼の御挨拶の
 後開宴され、前田憲一先生はじめ
 四名の方々の御祝辞と花束贈呈が

あり、清野先生のお礼の御言葉が
 ありました。次いで松田長三郎先
 生の御発言にて乾杯。そして会食
 に移り、旧交を暖めつつ楽しい雰
 囲気の中で推移し、余興に福引が
 行なわれ、当選者には清野先生の
 絵が拍手と共に贈られました。
 今回の記念画展は参観者も五百
 名近いとのこと、先生の絵を敬
 愛する人々は年々増え続けて来ま
 した。
 先生には益々お元気の御様子
 で、今後とも、御研究や絵やその
 ほか多くの分野で御活躍されます
 よう、参加者一同衷心より祈念致
 した次第です。記念画展当日の先

中部支部だより

電気供給業

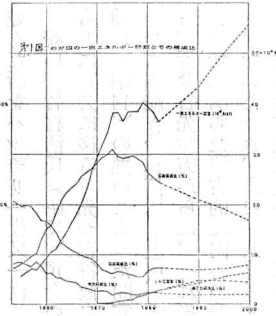
昭和三十二年卒 中村 修 三
 戦後、驚異の成長を続けた日本
 経済の行方に、天変地異的衝撃を
 与えた昭和四十八年の第一次石油
 危機から丁度十年。その後の、わ
 が国のエネルギー対策、石油を始
 めとするエネルギー供給について
 の変遷は、御存知の通りだと思ひ
 ます。
 しかし、今日、わが国が一次エ
 ネルギーの六割をも、そこに依存
 するペルシャ湾岸石油産出国をめ
 する生のお写真を添えさせて頂きま
 す。(林 宗明記)



(中部電力班からのたより)
 そのなりわいのきのう、今日―
 昭和三十二年卒 中村 修 三

ぐる政情、というよりもはや戦情
 といった方がふさわしいと思われ
 程の緊迫の情勢の中で、エネル
 ギー問題に深いかかわりを持つ、
 電気供給業にたずさわる一員とし
 て、あえて諸兄の参考に供するた
 め一文をものにし、これをもって
 洛友会中部支部だより「中部電力
 班からのたより」にも代えようと
 いう魂胆であります。
 それでは早速、「おさらば」を

させて戴きます。まず、過去三十年ばかりのわが国の一次エネルギー需要と、その内訳の推移を第一図にしてみました。



○昭和三十年代から四十年代半ばまで、わが国は、世界中の安価な資源、エネルギー源でいえば安い石油をふんだんに活用して高度経済成長を謳歌した時代。この間一次エネルギーのGNP弾性値は一をこえていた。

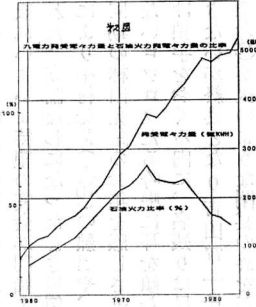
○資源集約型の高度成長にかけりがみられた中で昭和四十八年から四十九年にかけての第一次ショック。石油価格の高騰と供給の不安から行方知れぬ暗たんたる情勢の中からはい出るため、省エネルギー、石油代替エネルギーへの移行、産業構造の転換が進行した。これで昭和四十九年はさしものGNPも成長を忘れたが、それ以降、今度は一次エネルギーの弾性値を一以下におさえて、GNPは低い割合ながらも再び伸びを示してきた。

○第二次石油ショックのあと、五十五〜五十七年度については、何と経済成長を続けながら一次エネルギーの消費を減少させるという離れ技を果してきた。

第一次石油危機以来の、石油消費削減作戦の中で、特にかくかくたる戦果をおさめられた鉄鋼、セメント等の業界各位には敬意を忘れぬものです。

われわれ電気供給業においても、発電から配電に至るまで、全プロセスでの効率化と同時に、発電も石油からLNG、原子力への転換をはかり、石油火力の発電電力量の全体に占める比率を、第一次石油危機の四十八年の70%強から40%弱までに減少させることが出来ました。また、原子力発電の比率が、全発電電力量の20%をこえるまでになったことはよく御承知のことと思います。

第二図に石油火力の割合を、全発電電力量の推移とあわせて示します。



てみました。ここで前の一次エネルギー需給のカーブと比較してみられると、電気が二度にわたる石油危機の後こそ前年度より減少したものの、一次エネルギーの消費とちがって、終始その需要のび続けていることがわかると思われます。

このような電気の使い易さなどからくる、エネルギー消費の電力シフト化の傾向は、今後続くことが予想されるため、原子力を中心とする脱石油、エネルギー源の多様化等、エネルギー安全保障に対するわれわれの役割はより大きくなっていると考えています。

電気供給業として、石油火力に依存する割合を減少させることに努めてきたといっても、全国的にみても40%弱とまだまだ発電の中心、特に中部電力のように原子力の比率が低く、石油火力への依存度の高い会社では、総費用の中で石油燃料の購入費が50%近くを占めるという有様。

失礼ながら町のお風呂屋さんの経営と同じなんだろうと考えていましたが、ある時、問い合わせてみてびっくり、重油専燃のお風呂屋さんでも、支出に占める燃料費の割合はたったの20%。われわれは全くイスラムの民の救い主というていたらしく。

大きな支出を、また大きく左右

する石油価格、対ドル為替相場にひやひやしなから、何とか、その歴史の初期からの目標であったエネルギー・セキュアリティを目標として、原子力の推進を願ひ、努める毎日です。

現在わが社関係は、現役で三十名、OB八名の洛友会会員がおりますが、小生現在広報室に在籍しておりますので、一同のほぼ共通した認識を惜越ながらとりとめました。

第5回

洛友デルタ会総会

二年ごとに開催される洛友デルタ会も、本年は第5回目にあたり、全国各地から参集する会員を迎えて、思い出の土地、京都で開催された。

9月15日我々年輩の会員にふさわしく？この日は敬老の日の祝日である。前日の快晴とは打って変わり朝から曇天となり、ぼつぼつ会員が総会会場である近畿地方発明センターに集合する正午前から折り悪しく小雨さえ降りだした。しかしながらこの悪天候にもめげず、午後一時の定刻には予定された人員のほとんどが参集された。

定刻を過ぎること15分総会は、会場の事務局長である藤村俊一氏(昭11)司会のもとに開催された。

先づ市川龜久彌氏(昭13)の開会の辞につき物故恩師及び会員への黙祷を行い故人の冥福を祈念する。

続いて病後とは思えないお元氣さで、例のように流暢なシャ脱をまじえた挨拶をデルタ会代表立石亨三氏(大5)が行われた。

ついで幹事長代行神戸俊夫氏(昭14)より昭和57・58年度の経過が、次の内容につき報告された。

- (1) 洛友会創立30周年記念事業への寄付の件
- (2) 電気工学講習所跡地に記念碑建立の件
- (3) 幹事長及び幹事辞任の件
- (4) 幹事長及び幹事就任の件
- (5) 会員生年月日調査依頼の件
- (6) 大正年代居所不明者処置の件

以上各案件の内容については短信集第5号をご参照ください。

なお、案件(6)の処置については、賛成多数をもって幹事会に委任された。

引き続き昭57・58年度決算及び59年度予算について竹村清氏(昭13)より説明があり、同案件監査報告が米林外四雄氏(昭10)があり一部質問があったが、承認可決された。

最後に閉会の辞を湯浅幸雄氏(昭12)が行って総会を締めくくられた。

引続いて近藤文治先生のご退官

(三) 会員番号について

振替用紙会員各位の氏名の下に記載されており、また会員番号(8桁)の各桁付番の要領は、次のとおりであります。

ABCDEFGHIJGH

A: 年号 1: 明治 2: 大正

3: 昭和

BC: 卒業年次 例: 04は4年

35は35年

D: 学科名 1: 電気 2: 電子

3: 電II ただし、以上は33年以降のみ

4: 昭16・3卒の電気

5: 昭16・12卒の電気

6: 昭28(新制)の電気

8: 電気工学講習所卒

0: 前記以外の卒業生

E: 京大電気系学科以外の出身

で修士又は、博士コース修了又は、学修者

3: 修士 5: 博士コース

◎本学電気系学科から修士又は、博士コースに進学されても前述のDの番号は、Eの番号にはなりません。

すなわち電気系学科卒業時に付けられた番号が終身番号となります。

FG: 各卒業クラスの五十音順の番号。

H: 電算機会社の分類番号で関係なし。

例: ABCDEFG

2140013

大14卒 13番目

3164020

昭16・3卒 20番目

3286031

昭28(新)卒 31番目

3453045

昭45電II卒 45番目

3148009

昭14講卒 9番目

3542304

昭54電子修士修了(本学電気系学科以外の学部卒業生) 4番目

業生) 4番目

(四) 支部別略字について

会員番号の左に印字されている支部別略字は、次のとおりです。

西: 関西、京: 東京、部: 中部

中: 中国、四: 四国、九: 九州

陸: 北陸、北: 東北、道: 北海道の各支部の略称です。

したがって、この略字により会員各位の所属支部名がわかりいただけます。

なお、各支部所属の都道府県名は、名簿の6頁に記載されていますので、ご参照ください。

(五) 会員調査票の記入について

ご送金いただきました会員の中には、振替用紙裏面に印刷されており、調査票に詳細に記入して

いただいております方もありますが、名簿改訂時に資料とさせていただきます。

この件につき事務局としましてお願い致したい点は、名簿記載事項に変更のあった方だけ変更箇所例えば、住所、電話番号、会社名、所属部署名、役職名等その部分だけご記入いただければ結構です。

変更になった部分の記入は、例えば: 工場(事業場): 部、: 課までご記入ください。

この点よろしくご協力方お願いします。

(六) 複数勤務先の併記について

一部会員の方(特に年輩の会員諸氏)から二箇所の勤務先を併記するようご要求がありますが、現在の会員番号フォーマットでは勤務先を二箇所併記することはできません。したがって、主たる方の一箇所になりますのでご了解願います。

(七) 勤務先の社名変更について

この件につきましては、次のとおり処置させていただきます。

(イ) 名簿の「洛友会会員勤務先別名簿」に登録の会社名は、次回(昭和60年12月発行予定)より変更します。

(ロ) 卒業年次別会員名簿中の会社名は、「洛友会会員基本

調査票(振替用紙のもの又は、ハガキ)により変更通知のあった方のみ、次回発行名簿より変更させていただきます。したがって変更通知のない方は、旧社名のままになりますので、ご注意ください。

以上事務局としまして気の付きました点を列記しましたので、ご賢察、ご了解方お願いします。

名簿コンピュータ化

「こぼれ話「あれこれ」②

講昭和十三年卒

竹村 清

〇月〇日 晴 28℃

朝夕は大分冷しくなってきたが

残暑は厳しい。

いよいよ今日は電算機による名簿形式の初版がプリントアウトされてくる日である。大体の構成は電算機会社と印刷担当会社と事前に打合せてあるので頭に入っているが、現物を見るまでは何かと不安が付きまとう。

プリントアウトされている現物はA4判タイプで、これをB5判に縮小しなければならぬ。この時の字の大きさは?。天地・左右の幅は?。"ノンブル"の関係は?。などと体裁上のことも気掛りだ。

午前10時約束した時間どおり原稿が持ち込まれる。初めて見る努力の集大成である現物に立会うのは、企画立案されたT教授と電算機会社の担当者(と小生の三人。何ヶ月かテンヤワンヤして努力し準備した割合には物足りない感じである。

しかしこれで良いのだ。洛友会名簿にとって一つのエポックを迎える名簿の誕生には、最も苦勞した当事者だけ立会えば充分だと心いいきかせる。

「行方不明」

卒業年次ごとの在籍者の確認、校正の方法は、旧名簿を正しいものと仮定してこれと新名簿とを対照しながら行動することに決定。先ず新旧名簿の氏名のチェックをする。

アッない!! 旧名簿では実在する人物が新名簿では忽然として消え去っている。「行方不明」である。辞書によれば「行方不明」とは、「どこへいつてしまったかわからないこと」とある。まさにそのとおりである。

ノッケからこの状態。先ず原因として考えられること、エート調査票の紛失?。在籍登録番号の欠番?。まさか調査票に氏名の書き忘れ?。とゆうようなミスはしていない。残り、など一体何が原因かとい「行方不明」の構成要素が走馬灯

のように頭の中をかきめぐる。
先ず基本となる調査票は？ある。会員マスタ原簿への登録は？OK。なのはどうして名簿形式のものから行方不明になってしまったのだろうか。

もう一度基本となる調査票の記入各項目の確認、在籍登録番号は？OK、など一つ一つ点検、アタタ！「学部卒業年」記載の所「行方不明」になられたご本人の卒業年は大正でこの記号は「2」であるのが「3」（昭和）になっている。早速昭和の年代の所を調べると、チャンとここに鎮座しておられる。ヤレヤレ、この「行方不明」の原因は、従来の活版印刷では考えられないことで、会員マスタの在籍登録番号は正規に登録してあっても、卒業年次の記号が間違っている場合は、記載されている記号により分類されてしまうためだ。（参考までにこの記号「学部卒業年」の記載忘れは「会員名簿」から脱落になった）ヤッパリ、コンピュータは正直で融通がきかないアと変な所で感心して一件落着。

しかし問題は、これだけで解決した訳ではない、この逆の場合が発生した。すなわち、旧名簿にのっていない人が新名簿にのっている。この原因を調べて見ると今まで正しい基本としていた旧名簿の

卒業年次が間違っで記載されていたとゆう思わぬ所でミスが発見された。副産物的なおまけが付いた。ヤレヤレ、今日は本当に疲れた。ユツクリ風呂へでもはいて休養するとしてしよう。

抹殺自在

「行方不明」の裏話のついでに、もう一つこの上をゆく「在籍者消滅」とゆう事態が発生した。これも後から考えればナンダとゆうお笑いにはかならないが、その時、その人は大真面目。いつものように新旧名簿の対比をしていると例の「行方不明」者が発生。また例のこのミスかと思ひながら調査票の所在確認！ある。例の所の記載は？OK（実はここで注意して各項目をチェックすればよかつたのだが……）。会員マスタの点検、オヤッ前回チェックの時は、この人はここに確かに登録されていたのに、それこそ忽然となくなっている。この人は前回住所欄の訂正をしたはず、ともう一度調査票を調べる。ワカッタ！住所を訂正するとき訂正記号を「2」とするのを、抹消記号「3」と記入したためだ。

前にも書いたように年号の場合は大正は「2」、昭和は「3」である。在籍者は圧倒的に昭和年代が多いので、324……、380……、など

どと登録番号を書いているためか習性で成るのたどえ？か、つい「3」とゆう数字を書くのが習慣になったのだろうか。この「2」と「3」との書違いのためにご本人は行方不明どころか危ふく会員マスタから「抹殺」してしまふとゆうお粗末の一席。この後始末は一から会員マスタの登録のやり直し。たった一字2と3とのミスが時間と労力と経費の無駄発生。日頃QCのムリ、ムダ、ムラを無くするとゆう気持ちを忘れたのかと自分自身を叱りつけ、校正の重要性を今更ながら再確認。

「生かすも殺すも01一つ」
都々逸に「〇〇殺すにや刃物はいらぬ雨の十日も降ればよい」というのがあるが、こちらの方は刃物や雨はおろか鉛筆で或る所に「01」と書けば、現存、実在の有名人も会報上では黒棒こそ付かないが死亡者に登録されて索引のご自分の名前の前に「◆」が付いてしまう。

会員各位にこの計画の当初にお送りして、ご記入をお願いした調査票の下の方に「せい去」、「居所不明」という欄が隣接して記載してあったのを、ご記憶があった方もおられると思う。勿論この欄の記入は、ご本人で

はなく担当者のわれわれが記入するのである。

記載欄の両者がとなり同志に存在するのが曲者だ。暑さも去つたのに睡気か疲れのせい、ある日、ある時「01」の記載を間違ってしまい、居所不明者を「殺害」して編者殺人犯になる茶番劇の一席をお笑い話としてコツリ紹介しておきます。（以下次号）

計報

講大7	藤井源四郎	47.7.20
講大9	服部 鹿三	58.10.28
講大10	赤江 忠孝	58.3.30
講大11	大儀福三郎	54.7.18
講大11	志波 又蔵	59.6.27
講大11	高広 唯一	58.2.6
講昭3	伊藤 亮策	54.3.4
講昭3	野上 寿	52.
講昭3	渡辺 稔	56.3.3
講昭5	国松 保夫	59.7.30
講昭6	野波 健康	57.8.
講昭8	立花 正義	59.8.25
昭11	徳岡 毅	59.7.13
講昭11	田付 卓三	
講昭11	牧 清	44.
昭15	肥後 大介	59.9.19

以上の方々が、ご逝去なさいました。謹んで哀悼の意を表します。

編集後記

近年には珍しく長く暑かった夏も過ぎ爽やかな仲秋の季節となりました。会員各位にはいかがお過ごしでしょうか。七月号からご覧のように会報の大きさ、頁数等の体裁はそのままで、従来何かとご不満、ご不便のありました「綴穴」を設けました。これによって保存が楽にしかも紙面を損うことがなくなったのではないかと自画自賛しております。

本号には、昭和59年度新卒業生の追加名簿を掲載する慣例上、記事に掲載する紙面が6頁分しか振り当てられません。従って前回月号掲載をお約束しました「西安・シルクロードの旅」と「三美具」の記事がまたまた次号へ繰り延べとなりましたことを重ねておわび申し上げます。

2回にわたり連載してきました「名簿コンピュータ化こぼれ話あれこれ」も次号をもって一応終了させていただきます。来年のことをいえば何とかですが、来年の今頃は名簿第2版の作成準備に忙殺されているかもしれせん。各ご本人の訂正は勿論のことですが、名簿についてのご意見、ご希望がございましたら、なにとぞ早目にお申越しく下さい。編集時の参考にさせていただきますので、よろしく申し上げます。（竹村記）